

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
常総市	水海道東部（五箇地区）	令和4年3月4日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	449.02ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	392.54ha
③地区内における39才以上の農業者の耕作面積の合計	391.39ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	333.97ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	62.70ha
(備考)	

- 注1：③の「○才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
 注2：④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
 注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
 注4：プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

この五箇地区については、福二町、上蛇町、川崎町、三坂新田町、沖新田町の5つの町から成っている。三坂新田町上集落の所には、常総I.C関係のアグリサイエンスバレーでの開発が進められている。基本的には集落の西側に土地改良の入った耕作しやすい田が有り、集落近辺の内耕地的な田畑については耕作しやすい箇所となっている。耕作の状況については、福二町及び上蛇町の南側、川崎町の南側は、自作地が多く、集積・集約化は進んでいない。
--

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

この地域では、29名の中心経営体の農家がありますが、中間管理機構の農地バンクを利用した田畑の貸借は少ない状況である。相対耕作も多く、また、高齢化が進み、自作が困難な農家が増えてくると見込まれることから、担い手農家が協力して、集積・集約化を図っていくことが必要である。

- 注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
 注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

(農地の貸付け等の意向) 田畑の売りたい貸したいとの意向は少しあるように見受けられる。田はほとんどないが、小さい面積の耕作しづらい畑では若干売りたい箇所もあるようです。今後、高齢化が進み、耕作依頼が増えると予想される。
(農地中間管理機構の活用方針) この地区での中間管理機構をとおした貸借農地が少ない。今後、大面積を耕作する担い手農家にとっても分散した耕地を集約し、作業効率を向上することで、利益向上が見込まれるため、自作、相対耕地を含め中間管理機構の事業の周知を図り利用促進を進めていく。
(基盤整備への取組方針)